

仙台・宮城版スマートサイトの仕組みと経過

佐渡 一成 (さど眼科)

陳 進志 (あさひがおか眼科)

阿部 直子・善積 有子 (アイサポート仙台)

内田まり子 (日本盲導犬協会仙台訓練センター)

1. はじめに

SmartSight™¹⁾ (スマートサイト) は、American Academy of Ophthalmology のインターネットサイトからダウンロードして利用するロービジョンケアに関する情報で「患者向け」と「眼科医向け」があります。「患者向け」のリーフレットには視覚障害に陥った患者の心理変化に配慮する文章によって、保有視機能の活用法など生活に役立つヒントが記載されており、ロービジョンケアを受けることができる施設の紹介も行っています。「眼科医向けのレベル1」は、全ての眼科医が対象で①視力が0.5(20/40)未満、②暗点がある、③視野欠損がある、④コントラスト感度が低下しているのいずれかに該当する患者を診察したら手渡すためのリーフレットが作られています。

残念ながらロービジョンケアが十分に広がっているとは言えない我が国の現状を考えると、SmartSight™¹⁾の「リーフレット」のように簡単に手渡せる日本語版の地域情報ができれば有用です。永井春彦先生が我が国にSmartSight™を紹介以来、兵庫などでは地域版スマートサイトのリーフレットが作成されています。しかし、リーフレットを渡された患者が、自分から情報や支援機関にアクセスする確率は高くありません。そこで、リーフレットを渡すだけでなく、患者の理解を得たうえでコーディネーターに連絡する「仙台・宮城版スマートサイト(SMSS)」を2010年から開始しました。今回は、SMSSの仕組みに加えて、この活動の拡がりについて

も報告します。

2. 仙台・宮城版スマートサイトの仕組み

「スマートサイト」あるいは「仙台・宮城版スマートサイト」で検索してみてください。リーフレットがダウンロードできます。**図1**は患者さんや家族向けの説明です。コーディネーター窓口は、アイサポート仙台と日本盲導犬協会仙台訓練センターの2か所です。

眼科医が診察の際に支援の適応だと判断したらホームページ(HP)²⁾からあらかじめダウンロードしておいた「FAX連絡票(**図2**)」に、患者さんの同意を得ていることも記載してコーディネーターにFAXします。依頼項目はチェックするだけで済むようになっていますし、何に困っているか具体的に把握できていない場合には総合的な生活相談という欄をチェックすれば対応してくれるようになっています。

眼科からコーディネーターにFAX連絡票が届くとコーディネーターが、当事者のニーズを把握し、必要な支援を組み立てて専門家に支援を依頼するのです。その結果、支援が患者、当事者に届くようになりますし、必要な場合支援は繰り返し行われます(**図3**)。

3. 経過

2011年1月、宮城県眼科集談会で我々のスマートサイト(SMSS)の仕組みと症例を報告しました。この時点でのSMSSへの参加者は共同演者のみでした。当事者12例にFAX連

仙台・宮城版スマートサイト

SmartSight は、アメリカ眼科学会が開発した視覚障害リハビリテーションに関する情報で患者さん向けと眼科医向けがあります。

患者さん向けのリーフレットには視覚障害者の生活に役立つヒントと視覚リハ関連施設が紹介されています。

このパンフレットの目的は、見えない・見えにくいことでお困りのかたが、適切な指導や助言、訓練が受けられるように、宮城県下の施設や団体を紹介することです。

本が読みにくい、まぶしくて見にくい、仕事を続けるのが難しい、気持ちが落ち込むなど、どんなことでも、まず裏面のコーディネート窓口のいずれかまでご連絡ください。

お電話の際は「スマートサイトを見ました」と一言お伝えください。

ご相談内容に応じて 見えにくいかたへの助言などについて経験豊富な眼科、施設、団体などを紹介します。

みやぎスマートサイト推進委員会

* あなたの視力	右	左
* 視野	右	左
* 病名	右	左

仙台・宮城版スマートサイト コーディネート窓口のご案内

アイサポート仙台 仙台市中途視覚障害者支援センター

- 電話 022-212-1131
- ファックス 022-212-1136
- 住所 〒984-0073 仙台市若林区荒町215 荒町中央ビル1階
- ホームページ <http://www15.plala.or.jp/isupport/>

仙台における視覚障害者のリハビリテーションや生活支援に関する「よろず相談所」です。

福祉サービスの利用手続き支援、見えにくい、見えない人へのちょっとした生活の工夫の提案、その他生活やリハビリテーションに役立つ情報の提供などを一人ひとりの希望やニーズに応じておこなっております。来所による相談のほか、ご自宅や入・通院されている医療機関を訪問しての相談もお受けしています。相談は無料です。(仙台市中途視覚障害者生活支援事業)

日本盲導犬協会仙台訓練センター リハビリテーション事業部

- 電話 022-226-3910
- ファックス 022-226-3990
- 住所 〒984-0263 仙台市青葉区茂庭字松倉12-2
- ホームページ <http://www.moudouken.net/modules/tinyd5/index.php?id=8>

日本盲導犬協会では、見えない・見えにくい方のリハビリテーションを実施しております。生活上の不便や不安の相談だけでなく、仙台市の方には仙台市の委託を受けてご自宅に訪問してのリハビリテーション訓練(白杖・点字・音声パソコン・調理等)を実施しております。宮城県内の方には宮城県視覚障害者福祉協会と協力して同様のサービスを提供しております。いつでもお気軽にご相談ください。相談は無料です。

* みやぎスマートサイト推進委員会
視覚障害者・児のサポートを多職種ネットワークで行うために、眼科医、視能訓練士、社会福祉士、視覚支援学校教員などが連携して活動している団体です。
(文責：佐渡一成 / さと眼科)

図1 患者さんや家族向けの説明(仙台・宮城版スマートサイト リーフレット)

FAX連絡票 ◆送信日: ____年__月__日 仙台・宮城版スマートサイト

◆送信先: アイサポート仙台 仙台市中途視覚障害者支援センター FAX 022-212-1136 TEL 022-212-1131

◆送信先: 日本盲導犬協会仙台訓練センター リハビリテーション事業部 FAX 022-226-3990 TEL 022-226-3910

◆患者さんの情報: ※個人情報のため、FAXを送信するにあたってはとくにご注意ください。

氏名: ※イニシャルでも可 性別: 男 女 年齢: _____ 歳

住所: ※居住地域が大きめにわかれば可(例:〇〇市△△町)

◆患者さんへの情報提供と同意: スマートサイトのコーディネート窓口ご連絡することを患者さんに説明し、コーディネータから連絡させていただくことに了解していただけますか? はい いいえ

◆依頼項目: ロービジョン補助具について 身体障害者手帳の申請について 障害年金の手続きについて 障害福祉サービスについて 介護保険サービスについて 進学や学習・学校生活について 就労(勤務の継続や就職など)について 歩行・日常生活訓練について (家族への)介助方法の助言 総合的な生活相談 ※「何に困っているか?」のニーズ把握をしてほしい など その他

Ver.01-2011/02

図2 FAX連絡票

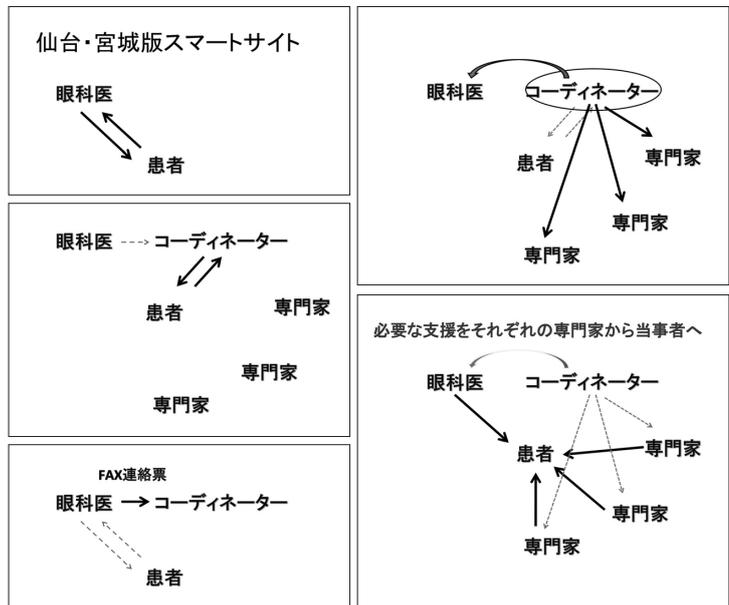


図3 仙台・宮城版スマートサイトのしくみ

絡票を利用して支援を行ったことを報告し、宮城県眼科医会(宮眼医)のHPからもリーフレットやFAX連絡票がダウンロードできるように働きかけた結果、2月には宮眼医のHP³⁾から

もダウンロードできるようになりました。

宮眼医のHPからもダウンロードが可能になった直後の3月11日、東日本大震災が発生しました。それでも2012年1月までの1年

表1 仙台・宮城版スマートサイトに参加した眼科医療機関数の推移

	新たに 参加した施設	新たな施設からの 依頼件数	依頼総数
集談会前	(2)		(12)
1回目の集談会后 (2011.2~2012.1)	2	5	21
2回目の集談会后 (2012.2~2013.1)	6	13	34

間の利用は21件で、このうち、当初のメンバー以外からの依頼が2施設から5件ありました。

そこで、翌年の2012年1月には再度宮城眼科集談会で、SMSSの経過を報告しました。この2回目の報告では、当初からのメンバーではなかった2施設からの依頼5件について報告しました。

2回目の経過報告以後、2012年2月からの1年間の利用は34件で、この中には、これまで依頼のなかった6施設からの13件が含まれています。

集談会で最初に紹介する前は2施設でしたが、2年間で10施設から我々のスマートサイトに連絡が入るようになりました(表1)。

宮城県眼科医会の所属施設は大学病院を含めて102ですので、この時点で約1割の眼科が参加したことになります。仙台市に限れば、57施設中7施設12%です。2013年6月、コーディネーターに確認したところ、2月以降の依頼は5件、このうち1件がこれまで依頼のなかった施設からのものでした。また、実はこれらの5件の依頼はすべて「FAX連絡票」ではなく、電話やメールによるものだったそうです。仙台エリアの連携は「FAX連絡票」がなくても良い段階になってきたということなのかもしれません。

4. まとめ

1) 仙台・宮城版スマートサイトでは、コーディネーターが重要ですが、すでに宮城には経

験豊富なコーディネーターがいますので、「FAX連絡票」に記載して送れば連携・協力した視覚障害者支援がスタートします。

2) 「患者の理解を得たうえで、コーディネーターに連絡する」仙台・宮城版スマートサイトは、日常診療中でも負担なく当事者に届けることができるので、患者にも診療側にも有用です。

3) また、このような取り組みを軌道に乗せるためには、集談会など地域の勉強会で「繰り返し」周知することが効果的でした。

4) 現在、宮城でスマートサイトに参加している眼科医療機関はまだ約1割ですので、もっと参加施設を増やしていきたいと思っています。また、スマートサイトのような仕組みは作れば終了ではなく、活動の拡がりを経時的に評価しながら経時的に啓発を行うこと、必要な変更が生じた場合はアップデートすることが重要です。

(本稿の要旨は、第22回視覚障害リハビリテーション研究発表大会において発表した。)

参考 URL

- 1) <http://one.aao.org/smart-sight-low-vision>
- 2) <http://www.sado-ec.com/worklist08.html>
- 3) <http://www.miya-gan-i.net/other/PDF/smartsight1-01.pdf>